写真館
GYODA CITY PHOTO STUDIO

観光大使に鳥居みゆきさんが就任

5月21日、市役所応接室で行田市観光大使委嘱式が行われました。

この日、委嘱を受けたのは、タレントの鳥居みゆきさん。現在は、タレント活動の他、女優、小説家、映像監督と多方面で活躍中です。学生時代の一時期を行田市で過ごした鳥居さんは、工藤市長から委嘱状を手渡され「魅力たっぷりの行田をたくさんの方に知っていただけるよう全力でＰＲしていきます」と抱負を語りました。

赤々と燃える炎が作り出す神話の世界

5月4日、さきたま古墳公園で第32回さきたま火祭りが開催されました。

天候に恵まれたこの日は、市内外から約8万人の観光客が訪れました。また、午後7時過ぎになるとニニギノ命とコノハナサクヤ姫がたいまつ行列とともに輦台（れんだい）に乗って登場。そして産屋に火が放たれると祭りは最高潮に達し、会場から大きな歓声が沸き起こりました。炎が作り出す神話の世界に、多くの人々が酔いしれた幻想的な夜でした。

たくさんのホタルが飛び交う古代蓮の里を目指して

5月7日、「古代蓮の里ホタルの会」主催によるホタルの幼虫の放流会が古代蓮の里にあるホタルの川で行われました。

初夏を感じる天候の下、多くの親子連れが参加。初めて幼虫を見た子供たちはその足の数に驚いているようでした。そして約5,000匹のヘイケボタルの幼虫を同会の会員とともに「大きくなーれ」と声を掛けながらやさしく放流しました。

成長したホタルは6月中旬にやさしい光を放ち、夏の訪れを知らせてくれることでしょう。

サッカーを通じて規律と思いやりの心を学ぶ

5月7日、行田中学校で埼玉県警、行田警察署、浦和レッズハートフルクラブの協力で「非行防止サッカー教室」が開催されました。

これはサッカーを通じて学校生活で規律を守る大切さや仲間を思いやる心を学んでもらうことを目的に開催されたものです。元日本代表コーチで同クラブのキャプテン落合弘さんは「仲間を思いやり、楽しみながら一生懸命プレーして欲しい」と語り、浦和レッズの元選手らコーチと実技指導に当たりました。参加した同校の生徒は真剣な表情で説明に耳を傾け、粘り強くボールを追い掛けていました。

行田の足袋文化に触れる

5月20日・21日の2日間、NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク主催の第13回ぎょうだ蔵めぐりまちあるきが行われました。

改修を終えたばかりの牧野本店や普段公開されていない個人所有の蔵などを見学しようと市内外から多くの人が参加。マップを片手に行田のまちを散策しました。また、北谷通りでは市内足袋業者による足袋屋横丁が同時開催され、白足袋や柄足袋などが販売されました。参加者は、イベントを通じて日本遺産に認定された行田の足袋文化に触れることができたようです。

行田ロータリークラブがＤＶＤを寄贈

4月20日、図書館で行田ロータリークラブによるDVD贈呈式が催され、川島副市長、同クラブの大野年司会長（写真左）、黒渕陽夫委員長（写真右）によるテープカットが行われました。

これは同クラブの創立50周年を記念して実施されたもので、ディズニーやスタジオジブリなどのアニメーションDVD100枚が贈られました。大野会長は「DVDを鑑賞することで、本に親しむきっかけになったら良いと思います。家族で一緒に楽しんでもらえたらうれしいですね」と話しました。

草花や小さな生き物に触れる

4月24日、長野地区にある柿沼重兵衛さんの畑で東小学校3年生を対象にレンゲ祭りが行われました。

この祭りは自然と親しむことを目的に総合学習の一環として毎年実施されているもの。花畑へと駆け出した子供たちはレンゲの花飾りを作ったり、カエルやテントウムシを捕まえたりと思い思いの時間を過ごしていました。自然の中で思い切り遊んだ経験は子供たちにとって良い思い出になったことでしょう。

南国のムードに包まれて

4月29日、「みらい」文化ホールで、第5回記念ナープアアロハハワイアンフェスティバルが開催されました。

市内外の公民館などで活動するフラやタヒチアンダンスのサークル12団体約70人が参加。サークルごとにおそろいの衣装に身を包んだメンバーは、日頃の練習の成果を発揮しました。最後は会場が南国のムードに包まれる中、参加者全員で「アロハ・オエ」と「ハワイ・アロハ」を披露すると、観客からは惜しみない拍手が送られました。